つながり

103号
2025.12.12
青森県高Ｐ連調査広報委員会
題字：八戸東高等学校　諏訪内博彦

青森県高等学校ＰＴＡ連合会事務局
〒030-0113　青森市第二問屋町４丁目11-6　計量検定グループ庁舎内
TEL 017-757-8586　FAX 017-757-8587
E-mail：akp017si@galaxy.ocn.ne.jp

←「高Ｐ連公式ＨＰ」二次元コードからアクセス!!
https://www.aomori-koupren.com/

青森県高Ｐ連合同研修会
「日本教育の現状と展望」
～未来を生き抜く力とは～

９月25日に青森県総合社会教育センター大研修室において、東京大学教授・慶應義塾大学特任教授である鈴木寛氏をお迎えして「日本教育の現状と展望」～未来を生き抜く力とは～と題してご講演をいただきました。県内から100名を超える参加者があり研修・健全育成委員会を代表して、参加された皆様には心から感謝申し上げます。

講演では、「すずかんゼミ」を永く主催され、数多くの優秀な人材を育ててきたことと文部科学副大臣を努めた経験をもとにお話をされました。

印象的だったのは東北に住む15歳までの子供の学力は高いが大学進学ではそれが生かされていないこと。また、高校３年間の学びは非常に大事であり、２０２１年１月からの大学入試改革によって今後の高校での学びが変わるとのことでした。さらに、過渡期には先進者とそうでない人の差が大きいため、変わるときはチャンスであるとお話しくださいました。「探求」「デジタル」が必要な時代となり、そこには問題に寄り添ってくれる指導者（伴走者）が必要であること、今後生きがいで働く人は激減するため、探求を経験した問題解決能力を持った20代が必要であるということもお話ししてくださいました。

また、講演終盤には求められる人材の変化や生成ＡＩの活用にも触れ、２０１５年調査で人材に求められた注意深さやミスがないこと、スピードが求められたのに対し、２０５０年には問題発見力や的確な予測と決定などが求められ職業の幅が変わるということが述べられました。生成ＡＩについてもＡＩが苦手な部分との親和性が大事であり、人間の能力には創造性が、ＡＩには高度な模倣力とが求められることを図表を用いてわかりやすく解説してくださいました。

あらゆる子供たちに可能性があり、自信を持たせることが必要であるということや、個別最適化や総合的な探究の時間の必要性など、講義内容からＰＴＡにとって必要なことが凝縮されたご講演でした。本当にありがとうございました。

（健全育成委員長　清水 寿子）

東北・全国大会記録

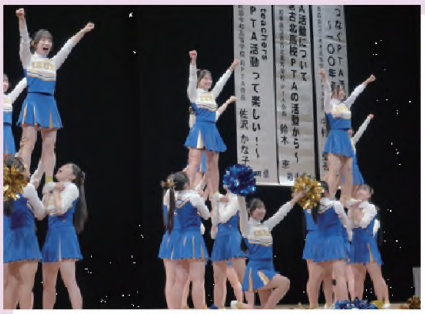
東北地区高Ｐ連仙台大会

研究協議

記念講演　川口淳一郎氏

青森県受賞者

情報交換会



発表 チアリーディング 仙台育英学園高校

全国高Ｐ連三重大会

記念講演
井村屋（株）会長　中島伸子

田名部会長挨拶

サオリーナ

アトラクション
相可高校調理科

優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
名久井農業高校

【高校生対象】ＰＴＡ活動に対するアンケート

［アンケートをお願いした学校］三本木高校　木造高校　尾上総合高校　田名部高校　むつ工業高校　大間高校　大湊高校

1,454名の方にお答えいただきました。御協力ありがとうございました。

〈質問内容〉

1　PTAという言葉から、どのようなイメージを連想しますか？
2　PTAは高校生の学校生活にどのように関わっていると思いますか？
3　PTAの活動で、高校生にプラスになることがあるとすれば、どのようなことだと思いますか？
4　PTAの活動について、あなたが「参加してみたい」「関わってみたい」と思うものはなんですか？
5　あなたの学校のPTA活動で印象に残っているPTA活動はなんですか？
6　あなたの学校のPTAでどんな活動をしてほしいですか？
7　PTAについて、ご意見やご要望があれば自由にお書きください。

今回はこの中の５・７の結果について紹介いたします。

※その他のアンケート結果は、つながり102号２ページに掲載済です。

あなたの学校のＰＴＡ活動で印象に残っているＰＴＡ活動はなんですか？

（多数意見）

- 文化祭のワークショップ
- 体育祭での豚汁づくり
- 球技大会の焼きそば
- 文化祭の中庭の催し物
- おやじおふくろの会

（少数意見）

- 挨拶運動
- 文化祭の出展
- 森林環境整備
- 環境奉仕
- 海岸清掃
- 体育祭の駐車場整理
- グラウンドの砂や白線の修正
- PTA会長挨拶
- スキルアップ講演会
- 購買

PTAについて、ご意見やご要望があれば自由にお書きください。（原文をそのまま掲載しております）

- 他の学校との交流会などをして地域の輪を広げてほしい
- これからも学校を支えるために頑張ってください
- 毎日を今のように充実して過ごせればと思います
- もっと行事を増やす
- 夏祭りなどを学校でやってみたいです
- 地域との交流の機会
- いろんな人で楽しめるスポーツイベントの企画
- よりよい学校にするための話し合い、特に校則改定
- 行事の手伝いや進路に関する情報提供いつもありがとうございます。

中には、保護者が書いてくれたと思われる、貴重なご意見もありました。（一部抜粋）

- 先生の不参加でもできることがあれば、先生たちの負担が減ると思う。今回は先生がいなくても話し合いできるね、という感じ。今は子供の数も少なくなっているので、親の協力が今までよりもっとあってもいいと思うが、負担に思っている親もいるのは確かなので、平等にというよりはやりたい人で沢山やってもいいとおもいます。活動をしたいという話も思ったよりは聞こえてくるので。
- PTAに色んな意味で、向き不向きの人がいると思う。例えば、親の人間関係だったり、家庭の事情など。正直、良いイメージは無かった。しかし、「無理のない範囲で」の言葉で、楽になり、やっていけそうです。宜しくお願いします。
- 参加すると理解も深まるし保護者の知り合いも増え、保護者が持っている地域やネットワークを活かして子どもたちの部活も含めた様々な活動を先生と協力して充実させることができる
- あんまり負担になるようなことはしないでほしい。
- 高校のPTAはなんとなく閉鎖的で参加しにくいです。役員やメンバーも同じ顔ぶればかりで　団結？が強そうで参加しにくいです。
- 仕事との両立が大変、兄弟がいれば小学校のPTAの方が忙しくて高校まで関われないのが現実。

３ページのアンケート結果をふまえ、令和７年９月19日(金)の第１回単位PTA会長会議で、PTAの保護者や先生方でテーブルディスカッションが行われました。そのときのご意見を紹介いたします。

【テーブルディスカッション】
テーマ「PTAが持続していくために必要なこと」－PTAに関する高校生アンケート結果を参考にして－

〈ディスカッション内容〉

1　PTA活動で高校生にプラスになることはどのようなことか
2　高校生が「参加してみたい」「関わってみたい」ものと保護者の違いは？
3　保護者が印象に残っているPTA活動は何ですか？それはどうしてですか？
4　PTAとして新たにどのような活動ができるか
5　PTA活動に関する思いを話してください

PTA活動で高校生にプラスになることはどのようなことか（一部抜粋）

・進路・就労・就学に関する情報提供（ＯＢ・ＯＧ交流会や保護者向けセミナー・就職試験対策など）
・学校行事への参加（文化祭・体育祭・進路講演会・芸術教室・田植え・稲刈りなど）
・校外の居場所や相談の場の設置（友達の親や第三者と気軽に話せる環境作りなど）
・親子・教員・生徒が協働する活動（防災実習、地域イベント参加、出前授業、学校清掃、イルミネーション設置、サミットなど）
・挨拶運動（栄養補給を組み合わせた子ども目線で工夫した取組など）
・講習会参加（藍染め・そば作り・アクセサリー作りなど）

高校生が「参加してみたい」「関わってみたい」ものと保護者の違いは？（一部抜粋）

(高校生)
・形式的な挨拶運動よりも 友達や他校生とつながれる活動（合同チーム、防災ネットワークなど）
・実践型・体験型の活動（収穫体験、防災プログラム、地域イベント参加など）
・親が学校と関わることに抵抗のある生徒もいる（思春期により親に学校の様子を見せたくないなど）
(保護者)
・文化祭や地域イベントでの子どもの姿を見られる活動
・外国人の子弟受け入れサポート
・学校施設修繕や遠征費支援といった学校基盤の維持支援
・PTAがハブになって他校や地域と連携する仕組みづくり
・講演会や芸術鑑賞ならPTAも参加できるかも
・授業公開（生徒の学校生活の様子を知りたい）

保護者が印象に残っているPTA活動は何ですか？それはどうしてですか？（一部抜粋）

・文化祭でのPTA出展・運営（家庭では見られない子どもの生き生きした姿を直接見られたから）
・地域イベント参加（親子の距離が縮まり、学校コミュニティにも好影響だったから）
・一声運動、焼肉のタレづくりなど全国表彰された活動（地域や学校活性化に貢献したことが誇りになったから）
・弓道場シャッターなど緊急修繕対応（学校を守る実効的な役割を果たせたから）
・保護者と教員との交流会（必要なコミュニケーションをとれたから）
・PTA同窓会の存在（子供が卒業した後も活動支援しているから）

PTA として新たにどのような活動ができるか（一部抜粋）

・第三者相談の場の設置（評価から切り離された安全な相談環境など）
・他校・支援学校との定期的な交流スキーム（小規模校連携や合同イベントなど）
・実践型防災プログラムの拡大（リモートで被災地とつながるなど）
・不登校生徒の支援（登校時間の柔軟化、居場所づくり、地域体験活動など）
・資金計画や遠征費支援の仕組み整備（ＯＢ・スポンサー・寄付金活用など）
・活動内容の可視化（SNS を活用した広報活動、PTA 主催の校内研修など）
・教員の負担軽減（活動の分類を明確にすることで行事の支援をするなど）
・Web 会議の導入（時間の節約、実施のしやすさなど）
・環境整備（校地内や通学路の草刈りなど）
・親子一緒の活動（親子ワークショップ、親子レクなど）

PTA 活動に関する思いを話してください（一部抜粋）

・「親が楽しむ」文化を大切にする（無理なく楽しく参加すれば子どもにも伝わる）
・現状維持こそ難しいが大切（持続可能性を重視しながら改善を積み重ねる）
・子どもの居場所づくりにPTAが関わる意義（家庭でも学校でもない“もうひとつの居場所”を支える役割）
・PTA は人と人をつなぐハブ（学校・家庭・地域を結び、子どもたちの学びと成長を後押しする存在）
・PTA に入らない人が増えてしまった（親が PTA 活動をよく理解していない）

以上です。これらの内容が、令和の新たな PTA 活動に発展させる一助になれば幸いです。

青森県高Ｐ連広報紙づくり研修会

「『広報紙』より魅力的に」

6月25日、青森県総合社会教育センターにて「広報紙づくり研修会」が開催され、県内各校より43名が参加しました。展示室には前年度の各校広報紙が置かれ、多数の参加者が閲覧していました。

講師には東奥日報社編集局整理部次長の兼平勇氏をお招きし、「広報紙より魅力的に」という演題で「読んでみたい紙面づくり・より目を惹く紙面づくり」について、実践を交え講演をして頂きました。

兼平氏が紙面を作成するにあたり大切にしていることは、「人との対話」だそうです。対話することで臨場感のある、より生に近い声の記事が出来るそうです。

ご講演を聞き、私たちも今後広報紙を発行するにあたり、「『学校と子どもたちのためのPTA活動』を、たくさんの方に知っていただくためには、生の声を大切に伝えよう。」と考えさせられました。貴重なお話をありがとうございました。

（調査広報委員長　坂本　瞳）

青森県高Ｐ連進路指導研修会

「私が青森県に住む理由」

11月5日、青森県総合社会教育センターにて、「令和七年度青森県高等学校PTA連合会進路指導研修会」が開催されました。

講師には、横町十文字まちそだて会理事のリー・ニョクペンさんをお招きし、「私が青森県に住む理由」という演題で講演をしていただきました。

リー・ニョクペンさんはマレーシア出身で、留学のため来日、その後、夫の故郷である青森県黒石市へ移住し様々な活動をされています。BSテレビ東京の番組「私が日本に住む理由」にも出演されました。

今回の講演では、青森の良さについてたくさんお話してくださいました。ずっと青森県に住んでいると気づきにくい青森の魅力・地域の良さを改めて実感しました。子供達と一緒に楽しむことで郷土愛を育てることに繋がる。やりたいことを応援する。改めて大切なことだと思いました。

（進路対策委員長　三代川将仁）

地区協議会だより

東青地区協議会

会長　須藤　聡志

本年8月、恒例の『青森ねぶた祭り合同巡視』を開催しました。内容の一部を見直し、教員の負担軽減を図りながらの実施となりましたが、各校にご協力いただき、無事に所期の目的を達成することができました。

10月には、健全育成委員会と研修委員会の合同研修旅行を開催しました。今回は再建された蕪島神社やその周辺を視察し、昼食会では郷土料理を楽しみながら親交を深めました。

11月には、県警サイバー犯罪対策課の笠原警部補を講師にお招きし、『サイバー犯罪被害に遭わないために』と題した研修会を開催しました。現代社会に無くてはならないSNSとの正しい向き合い方や安全利用について、新たな気づきが得られました。

中南地区協議会

会長　大川　孝司

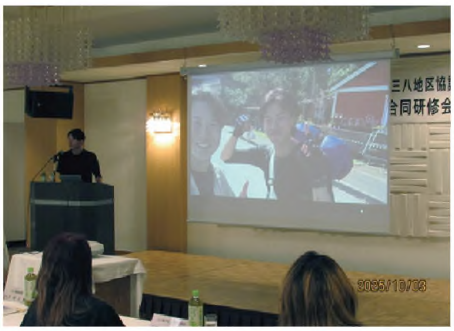
令和7年1月24日（金）、弘前パークホテルにおいて「中南地区協議会研修会」が開催され、弘前大学大学院教授の吉田美穂先生に講演を頂きました。

「ヤングケアラーにどう気づき、支えるか」と題した講演では、子ども達が家族のケアに過度な労力を強いられることによる弊害や、ヤングケアラーとの接し方、更には具体的データを元にした県内外の実情の紹介がありました。出席者はヤングケアラーが存在している、という事実を自分事として捉えることができました。

講演後は質問が多数あり、保護者の方々の熱意が感じられました。子ども達の心に寄り添い、地域全体で子ども達の見守りを続ける必要を感じさせる、意義深い研修となりました。

三八地区協議会

会長　千葉　毅



令和7年度青森県高等学校PTA連合会三八地区協議会研修委員会・健全育成委員会合同研修会が、10月3日（金）八戸プラザホテルにおいて行われた。田子町役場商工振興課地域おこし協力隊の吉村悠司氏を講師にお迎えし、「地域おこし協力隊の今と未来～新卒を地域で過ごして～」と題して講演していただいた。

地域おこし協力隊の役割や活動内容、なぜ大阪から青森へ来ることになったのか、協力隊として活動してみての感想、地域おこし協力隊の考えについてお話いただき、役割や活動内容、現在の課題について理解を深めることができました。

地区協議会だより

西北地区協議会

会長　三浦　大介

10月8日（水）にプラザマリュウ五所川原で地区協議会研修会が開催され、約50名が参加しました。有限会社リンゴミュージックの小野悠氏が「夢実現のための心の安全・安心」と題して講演。会社概要や人材育成（先輩から後輩への指導、礼儀重視）の考え方などを拝聴しました。同社アーティストは県内の一次産業を応援しており、活動の工夫も紹介されました。また、小野氏は子供たちの心の安全対策として①自分の居場所へ行く②公平な判断ができる人のいる環境③周りの人の応援④ネットリテラシーを挙げました。講演は「大好きなことで誰かの役に立つ」という先義後利の考え方のもと、青森からの挑戦を続けるメッセージで締めくくられました。

上十三地区協議会

会長　中野渡　裕則

旬野菜で健康・安全な食卓を！講習会開催！

11月3日、野菜ソムリエＰｒｏの中村陵子先生を講師に迎え、「旬の野菜を食べて健康で安全な生活を」をテーマに講習会を開催しました。旬の野菜の栄養価の高さや、ＷＨＯ発表の「食品をより安全にするための５つの鍵」による食の安全について学びました。

実習では、採れたてのごぼうと大根を調理しました。ごぼう茶入り炊き込みご飯、大根と豚肉のミルフィーユ、風邪予防になる大根のはちみつ漬けなど、30分ほどで4～5品ができあがり驚きました。食の知識と調理技術を深めることができただけでなく、上十三地区のＰＴＡの方々と交流ができ、有意義な一日となりました。

下北むつ地区協議会

会長　辻　雅也

10月21日（火）に第一回研修会を実施しました。田名部高校第一体育館において、心療内科医・精神科医である桑山紀彦氏を招き、「地球のステージ（特別編）」をご講演いただきました。東日本大震災の被災体験と13年目の被災地の現在、そして、世界の紛争、パレスチナ・ガザ地区での戦争と医療救命活動について、ライブ音楽と映像、スライドと語りを組み合わせたコンサートステージでした。人為的か自然発生的の違いはあれど、人々の希望を根こそぎ奪い、特に未来を担う子どもたちに甚大な影響を与えるという点では、本質的に同じ破壊行為であると気付かされました。

文化祭ダイジェスト

田名部高校

模擬店を行いました。メニューは田高焼き（とん平焼きのたこバージョン）、やきとりです。

青森西高校

模擬店を出店しました。冷やしキュウリと甘食、アイスコーヒー、アイスティー、ポップコーンを販売しました。

野辺地西高校

PTA模擬店を出店し、特製とん汁やごま団子を販売しました。とん汁は保護者・生徒が協力し、模擬店の仕込みを行いました。

五所川原工科高校

五工祭実行委員とPTA健全育成委員会のコラボです。

八戸西高校

そろいのエプロンを着用し、学年ごとに店舗を構え、食品や雑貨を販売しています。今年はイートインコーナーに鉄道模型のジオラマを展示し、好評を得ました。

八戸工業高校

豚汁調理風景。

青森商業高校

「SEISHOP」（セイショップ）としてドリンクの販売、輪投げ、くじ引きを実施し、ハロウィン感のあるブースと景品で大盛況でした。

大間高校

研修委員会が中心となって模擬店を出店してます。毎年様々なメニューを販売してきましたが、今年度はフランクフルトとホットドッグを販売いたしました。

十和田工業高校

進路・研修委員会が中心となり、「PTA 食堂」として運営しました。提供したメニューはラーメン・揚げパン・揚げ肉団子・ミルク大福で大盛況でした。

青森工業高校

模擬店はホタテ焼き、広報委員会の展示を行いました。

七戸高校

模擬店を開催。100 周年記念クッキー・トートバッグ・マフラータオルの販売。

下山学園高校

PTA 協力による食堂営業では、そば・うどんの販売を行いました。土曜日保護者はそば・うどん関係の準備で、そば・うどんの販売は日曜日でした。

編集後記

今回は「学校・子どもたち・保護者の「つながり」をより知ってもらおう」をテーマに、PTA についての認識や関わり方を中心に構成してみました。本紙を通じて、PTA 活動の重要性が伝わることを願っております。

この 1 年間、新形態になった「広報紙つながり」を委員全員で盛り上げるために試行錯誤して参りました。ご協力いただきました多くの PTA、学校関係者、高 P 連事務局の皆様には深く感謝申し上げます。来年度の「広報紙つながり」も何卒宜しくお願い申し上げます。　調査広報委員長　坂本　瞳

一般財団法人 青森県高等学校安全互助会

安全互助会だより

65号
2025.12.12

―― 明るく　強く　逞しく ――

共済掛金は来年度も同じです。

- 全日制（専攻科を含む）……600円
- 定時制・特別支援学校……250円
- 通信制……100円

令和７年度　上半期事業費支出内訳

令和７年４月１日～令和７年９月30日

◆ 事業費　2,037,978円

1	学校安全普及充実事業費		600,000円
	(1) ８月１日 助成金支出（地区協議会　安全教育活動費）		300,000円
	(2) ８月１日 助成金支出（青森県高等学校文化連盟）		100,000円
	(3) ８月１日 助成金支出（青森県高等学校体育連盟）		100,000円
	(4) ８月１日 助成金支出（青森県高Ｐ連安全教育活動費）		100,000円
2	共済金給付事業		1,433,853円
	(1) 死亡共済金	0件	0円
	(2) 後遺障害共済金	0件	0円
	(3) 負傷共済金	91件	1,433,853円
	(4) 香料	0件	0円
3	その他の事業		4,125円
	(1) ７月11日 安全互助会だより64号		4,125円

◎ 青森県高等学校安全互助会加入生徒数

全日制 21,839名　定 836名　特 123名　通 628名　　総数　23,426名

第29回青森県高等学校体育連盟研究大会報告

今年度も「望ましい部活動の在り方を求めて」と題し、安全互助会の御支援のもと、第29回研究大会を青森県総合社会教育センターにて開催しました。県内の高校運動部活動指導者約52名が参加しました。

今回は大阪体育大学大学院教授で、スポーツカウンセリングを専門とする土屋裕睦氏をお招きし、講義・演習が行われました。土屋氏は約30年プロチームや日本代表のメンタルトレーニングを担当し、パリ五輪では日本選手団の安全・安心を守るサポートを務められました。土屋氏の講演により、新たな観点からの選手への指導法や安全・人権への配慮を学ぶことができました。また、「強化・普及・安全」をテーマに５つの専門部からの発表が行われ、少子化の中でも高い目標を持ち課題克服に熱心に取り組む指導者の姿勢を確認しました。「プレーヤーズ・センタード」という概念を肝に銘じ、生徒の安全に配慮し、スポーツに主体的に取り組むことで、社会に貢献する人材を育成する必要性を再認識する有意義な研修となりました。

（高体連研究専門部 中村　努）